第33回 田善顕彰版画展

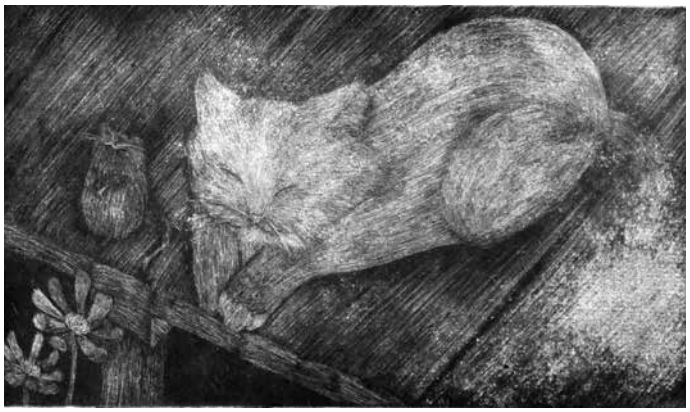
《田善賞　小学生の部》

《講評》平面的な習字の文字と、立体的なわたしや筆をしっかり描けています。特に平刀や三角刀の使い方が工夫され、下を向く顔の表現も細かく彫り込まれていてとても上手です。習字の授業で本気で勉強している様子が伝わってくるようです。４年生にして彫刻刀をとてもよく使いこなしています。

「習字を書くわたし」

須賀川市立阿武隈小学校　４年　小山田 紗衣

《田善賞　中学生の部》



《講評》メゾチント技法を使い、猫のいる暮らしの一部を細かく捉え、細かな作業で縁側の雰囲気（秋の日差し）をとてもうまく表現できています。この感覚を活かして良い中学生活を過ごして欲しいです。

「縁側と猫」

須賀川市立第二中学校　１年　藤 原　夏 希

第33回 田善顕彰版画展

《最優秀賞　小学生の部》

「がんばったよ持久走」

須賀川市立第三小学校　２年　三本松 和禾子

《講評》風を切って走っている感じを紙版画を使ってうまく表現できています。頑張っている顔を細かに切り貼り、激しい息づかいが刷り込められています。手や足の動きも激しく、頑張っている気持ちが画面いっぱいに表現できています。すごいですね。

《最優秀賞　小学生の部》

「パワー全開」

須賀川市立西袋第一小学校　５年　小 川　慶 悟

《講評》顔の表情と手の描き方や服のシワが、握力計を精一杯握った瞬間の力の入った様子をとても良く伝えています。木版の彫りの使い分けも素晴らしいです。

《最優秀賞　中学生の部》

「わたしの○○」

須賀川市立西袋中学校　２年　鵜 沼　奈 菜

《講評》作者の身近にある物がドライポイントでとても丁寧に描きこまれていて、作者の愛着が良く伝わる作品になっています。斜め上から捉えて遠近感を強調した構図も、作品の魅力を増しています。

《最優秀賞　中学生の部》

「生き延びようとしている木」

須賀川市立長沼中学校　２年　森　俊 汰

《講評》校庭に生えている木でしょうか。下から見上げる視点を強調した構図と、幹を黒々と描きこんだドライポイントによって上へ上へと伸びていく木の力強い生命力がとても良く表現されています。

第33回 田善顕彰版画展

《優秀賞　小学生の部》

「リコーダーの練習中」

須賀川市立西袋第一小学校　５年　小 山　稚 奈

《講評》リコーダーの練習をしている表情や指の動きがうまく表現できています。特に運動着と顔との白黒のバランスも成功しています。また、５年生らしく、遠近法をうまく活用して構図の工夫にも成功しています。全体的にリコーダーの練習をしている雰囲気も良くできています。

《優秀賞　小学生の部》

「なわとびでジャンプ」

須賀川市立第二小学校　１年　関 根　和 貴

《講評》飛んでいる姿に躍動感があり、また顔の表情からなわとびの楽しい様子が伝わってきます。別の素材をコラージュして縄を表現してみたりと、工夫したことが分かる作品です。

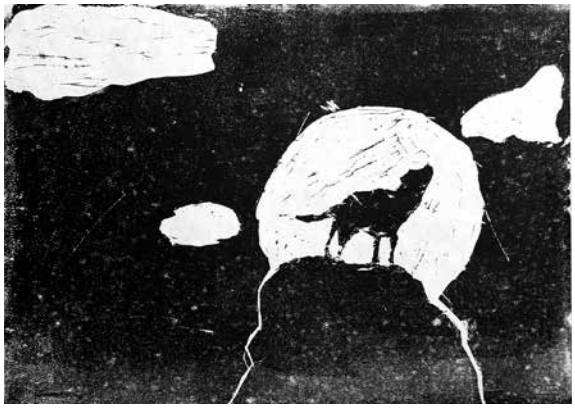
《優秀賞　小学生の部》

「大王オニがやってきた！」

須賀川市立仁井田小学校　２年　遠 藤　李 香

《講評》斜めから入る構図のダイナミックさや鬼の表情から、まさに「オニがやってきた！」というのが伝わってきます。大きな口やつり目、とがった指先など、鬼の怖さや特徴をとらえていて面白い作品です。

《優秀賞　小学生の部》



「オオカミの夜」

須賀川市立大東小学校　４年　松 川　咲

《講評》オオカミの表情が仲間に呼びかけているようで、見る人の心を揺さぶるような気がします。彫りはオオカミの様子を浮き上がらせ、細かく表したところに心を引き付けられます。雲が光って浮かんでいる様子も広い感じを出して、よりオオカミの気持ちを盛り立てているのが良かったです。

第33回 田善顕彰版画展

《優秀賞　小学生の部》

「空を羽ばたくシマフクロウ～カムイチカプ～」

須賀川市立第三小学校　４年　遠 藤　陽 佳

《講評》鳥などの生き物に心を惹かれているのでしょうか。ドラマチックにシマフクロウを羽ばたかせた表現が成功しています。特に顔と翼に彫りの工夫が見られます。平刀、三角刀などの使い方にも気配りが感じられ、迫力ある作品です。

《優秀賞　小学生の部》

「お絵かき達人」

須賀川市立西袋第一小学校　５年　三 瓶　崇 人

《講評》顔の表情や服装の線の彫り方に工夫が見られ、書きたいテーマに向かっての心遣いが良く分かる作品です。特に手前の腕の彫り方に迫力を感じます。その彫り方がよりテーマを強めているようですね。

《優秀賞　小学生の部》

「字を書くわたし」

須賀川市立阿武隈小学校　４年　渡 辺　美 月

《講評》自分を中心に表現していますが、形をとっている線が日本画で使われている線のようで、力強くもあり、優しさもある感じを受けます。美月さんの身体全体のデッサンもしっかりしていて、活き活きしています。初めての木刃を使ったにしてはとてもうまく、工夫した表現となりましたね。

《優秀賞　小学生の部》

「見つけた！テントウ虫」

須賀川市立阿武隈小学校　２年　熊 田　月 花

《講評》羽を広げて飛んでいくテントウ虫と、それを見つけて楽しそうな顔がとても良く表現できています。テントウ虫の羽や服の模様も素敵です。

《優秀賞　小学生の部》

「ヘチマ大きくなったなあ」

須賀川市立第一小学校　４年　車 谷　康 多

《講評》自分で育てて大きくなったヘチマを見上げる姿を木版画で描いた作品。嬉しそうな表情がとてもよく表現されています。

第33回 田善顕彰版画展

《優秀賞　中学生の部》

「なにかを見る自分」

須賀川市立仁井田中学校　２年　鈴 木　う さ

《講評》ドライポイントの技法を使っての自画像に成功しています。デッサン力に優れ、髪の表現が上手く、また指の動きの工夫も中学生らしく自己表現できているところが魅力的です。学校での普段の暮らしの一コマが伝わってくるようです。

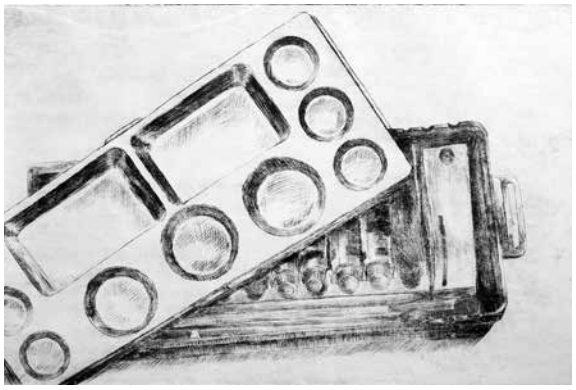
《優秀賞　中学生の部》

「暇」

須賀川市立仁井田中学校　２年　力 丸　紬

《講評》タイトルにある「暇」を持て余して机に突っ伏しているのは作者自身でしょうか。物思いにふけるような表情が、ドライポイントで非常に良く描けています。顔と手にクローズアップした構図も良いです。

《優秀賞　中学生の部》



「愛着のあるもの」

須賀川市立第三中学校　２年　金 田　小 春

《講評》自分が使ってきて愛着のある絵具とパレットを、ドライポイントで大変丁寧に描いていて好感が持てます。線の密度を変えて濃淡を出すことにより、重なっている物の立体感が巧みに表現できています。

《優秀賞　中学生の部》

「私と友達」

須賀川市立小塩江中学校　１年　鎌 田　帆 翔

《講評》マスクをしている表情が様々な感じ方ができ、訴えてくるものがあります。また、マスクの布の彫り方の表現方法がそれぞれ違って、質感の違いが表されている点が良いと思います。

第33回 田善顕彰版画展

《優秀賞　中学生の部》

「お願い！！」

須賀川市立長沼中学校　１年　森　菜々子

《講評》手を組んだ時の指の線の太さや彫りの表現、色の濃淡で力を込めたときの手の圧力が表現されていて、「お願い」の思いの強さが伝わってきます。また背景や手の甲の彫り方に木版らしい表現が出ていて、集中して彫った様子が目に浮かびます。

《優秀賞　中学生の部》

「優しさを包む手」

須賀川市立長沼中学校　１年　菅 野　琥 聖

《講評》手のクローズアップを明暗のコントラストを強調して描くことでドラマチックな表現になっています。タイトルにある通り、何かを包み込むような手の温かさと、木版画の持つ質感がとても良くマッチしています。

《優秀賞　中学生の部》

「疾走」

須賀川市立小塩江中学校　２年　押 川　千 晏

《講評》走っているのは駅伝大会でしょうか。線の表現に向いたドライポイントの特性やインクの拭き取りによる効果をうまく活かして、地面を蹴り上げる身体の動きや流れていく背景が巧みに表現されています。

《優秀賞　中学生の部》

「昔ながらの木」

須賀川市立長沼中学校　２年　藤 田　夕 奈

《講評》樹皮の質感が濃淡、ドライポイントによる細やかな表現で上手く表されています。木版では出せない、ドライポイントの特徴が活かされている作品です。濃く太い幹の中に、若葉が繊細に表現されており良いと思います。